



写真1 Let's 2R! Waste not! Want not! 2016年作品

大量生産/消費/廃棄/リサイクルには馴染めず、「ごみに出さない」を目指し、1979年から手芸教室を始めたことがきっかけです。「神戸ごみ問題連絡協議会：段ボールコンポストの発案者」に誘われ、環境問題や「廃品回収は死語」と考える仲間と89年から約25品目以上分別の資源集団回収を始めました。これは32年間今でも続けられています。最近の話としては、コロナ禍で宅配利用者が増え、嵩張る紙類（段ボール箱など）も増えている中、紐・テープを使用せずに清涼飲料水の空箱を筒状にして再利用する嵩減らし法『腹巻式段ボール』を考案、意外にも5kg以上の段ボールが片手で持てるサイズに一纏めにでき、省力化・資源化になる上に手軽に楽しくできると

好評です（写真2）。プラ包装容器も同様の手法で高張りが減り、1か月間以上保管可能な状態になります。これにより、ごみ出し回数、収集時の負担、ごみ出し袋の大幅な削減ができ、資源として戻りやすい形にすることで暮らしの見直しにもつながると大好評で、実演・講演会の依頼を受けることも多々あります。覚えると少しの手間で捨てずに有効活用が身に付くような排出方法を広めています。さて、本誌や廃棄物資源循環学会との関係を振り返ると、1996年から市民編集号『C&G』の編集に携わることになりました。『創刊号』（写真3）では、廃棄される布で制作したキルト作品がグリーン・アート・コレクションとして掲載されました。



写真2 腹巻式段ボール  
写真3 『C&G』創刊号  
写真4 2017年度研究発表会時  
写真5 大阪教育大学での展示  
写真6 減災頭巾

研究発表会（以下、年会）では、消費者市民部会展示場にて「交流ゾーン」が設けられていましたが、一般市民向けではありませんでした。そこで2007年の年会時に、『C&G』の販促を兼ねて通りがかりの一般の方々にも入って来て見ていただけるような展示を試みました。2008年の年会からは、2R活動を中心に学会員参加型のマイグッズ展、グッズ製作実演などを行い、さらに一般の方々にも見て触ってもらい交流しながら『ごみ』の一手前を考えられるような展示に携わって来ました。会員の方々が世界各地で撮りためた「世界のごみ箱写真展」を2013年に引継ぎ（2011年開始）、『循環とくらし』第7号にまとめています。市民展示出展者同士の交流も兼ねた2014年の年会時の「ミニ発表会」が好評であったことから、近年では「市民フォーラム」などの展示参加者の発表の場に加わり、『ごみゼログッズ』の説明展示も行なってきました（写真4）。

この「グッズ」制作は、2003年から神戸市の市民自主講座「捨てない生活術」で、繊維類・紙・プラスチック・不織布

など廃材を素材にした『アップサイクル・作品』作りが源であり（写真5）、国内外に送り出しています。近年の人気作品2点は3.11以降に依頼のあった減災頭巾で、マイバッグと組み合わせ、引き取り手のないウール・毛絹の着物生地（難燃・防水素材）を再利用した持ち歩いて災害時にサッと被れる「減災変型東袋®」（写真6、7）を、4年がかりで20年に完成させました。それと、胸部手術後に下着の付けられない女性がそのまま外出に着られる服「誰にでも似合うアップパッパ」を、死蔵されている浴衣生地で作成（写真8、9）、2015～19年ロシア手工芸祭や18年メキシコキルト祭で、日本の木綿布として紹介しました（写真9、10）。

モノの命を大切に『2R生活』が身につけている人の多い海外諸国であっても【Waste not! Want not!】【Let's 2R!!】を掲げながら、手仕事やSNSを通し繋がり、仲間が広がることを実感しています。『ごみと思わないこと』から、手作りの魅力・喜び・楽しさなどを体感し分かち合っていて欲しいと、願っています。



写真7 減災頭巾+マイバッグ



写真8 浴衣生地アップパッパ



写真9 著者首飾りがココシニク（ロシアの伝統的な髪飾り）に…



写真10 ロシア手工芸祭出展作品（向かって左側）